



Medi-Way 医療通訳者紹介 Vol.23 ベトナム語担当 バックさん

◆なぜ医療通訳者になった？

通訳の仕事を見つけるための就職活動中に、中学生の時に興味深く聞いた生物の話を思い出し、「生物学分野」の募集を中心に探したところ、運よく医療機関に採用され医療通訳の仕事に関わることになりました。



◆今まで医療通訳に携わってきて一番嬉しかったことは？

日本の理学療法士の技術指導に同行し、枯葉剤の影響を受けたベトナムの貧しい村を訪れたことがあります。背骨に異常のある子どもへの筋肉マッサージ指導が目的で、私が通訳しました。施術が終わり、ボランティア団のバスが走りだすと、患者のお父さんが追いかけてきて自分たちで作ったココナツの房を渡してくれました。わが子の背骨の曲がりは悪くなる一方だと思っていたのに、施術の効果を見て、また希望が持てたとお父さんは目に涙を浮かべて話されました。私自身は言葉という道具しか持っていませんが、ベトナム人の患者さんたちにより良い医療が届く力になれたことを実感でき、忘れられない貴重な経験となりました。

◆より良い通訳をするために心掛けていることは？

病気になったというだけで、誰でも不安になり、ストレスを感じるものだと思います。自分の病気のことを、頼りにしている医療従事者にちゃんと分かってもらえたなら、それだけで不安が和らぎ、病気に立ち向かう大事なファーストステップになるかと思います。患者さんの言葉を最初に受けとめるのが通訳者なので、リラックスして思っていることを話してもらったり、聞きたいことが聞けるように、通訳時の相槌や話すスピードに気を付けています。

通訳者からのおススメ ～Vol.4～



「日本の歌のカバー」



古くは「SUKIYAKI (原題：上を向いて歩こう)」から最近のJポップまで、日本の歌が海外の歌手によってカバーされているものはとてもたくさんあります。今回は中国語の通訳者が、大好きなカラオケに行くこともできなかったコロナ禍の3年半、ずっと癒してもらっていたという曲をご紹介しますね。

まずは蔡淳佳的「陪我看日出」です。この元歌は「涙そうそう」です。この人は中島美嘉の「雪の華」も中国語で歌っていますよ。

次に「下一页的我」王心凌です。直訳すると「次のページの私」、さて元歌は？いきものがかり「YELL」です。

最後は「后来」刘若英が歌っています。元歌はKiroro「未来へ」です。この人はアンジェラ・アキの「手紙～拝啓 十五の君へ～」もカバーして歌っていますが、ベトナム語通訳者によると、この歌はベトナム語でもカバーされて、今や学校の卒業式の定番だそうです。YouTubeで簡単に見つかりますので、ぜひ一度お聴きになってみてください。

今月のピックアップ

「通訳者の身だしなみ」



オンライン通訳を行う際に通訳者が気をつけていることについて、今回は身だしなみ編をお伝えします。

まず当たり前のことですが、どのような通訳シーンになるかわからないため、服装は医療の現場に相応しいものを選びます。華美すぎる服装、全身キラキララメだったり、宝飾品ジャラジャラなど、とにかく派手なものはNGです。色で言えば真っ赤な洋服や極彩色のプリントなど、いくら画面を隔てているからと言っても、診察室の皆さんの目がチカチカしてしまいますよね。あるベテラン通訳者は、特に精神科の通訳が予定されている日にはベージュを基調にした落ち着いた服装を心がけていると言っていました。

通訳センターでは、毎日午前午後の各1回、接続テストを行い互いの音声や映像を確認し合います。そんな時に画面に映る自分を見て、襟元や髪の寝癖を整えることも。

足元は、オンライン通訳では見えない部分ですが、同行通訳の場面なら当然ながら転びそうな高いヒールは履きません。実はMedi-Way勤務中も、他の通訳者のもとに駆け寄り、音声・映像に問題なくスタートできたかな、などサポートに回ることもあります。動きやすい足元というのも大切なポイントの1つです。

